

5.4 標準化について

(1)ISO/TC204/WG3 の全体構成

- 次世代デジタル道路地図検討に関連性がある項目としては、センタ・センタ間、センタ・車載端末、位置参照方式の3つが存在。
- 当面は、本研究会での検討の進捗を鑑み、センタ・センタ間およびセンタ・車載端末を対象に検討。
- 位置参照方式は、今後必要に応じて標準化活動への積極的参加等を検討する。

ISO/TC204/WG3 で主に検討されているアイテムは表 5.4-1 に示す通りである。特に次世代デジタル道路地図検討に関連があるワークアイテムとしては、センタ・センタ間 (BtoB)におけるデータフォーマットの検討を行っている XGDF、センタ・利用者間(BtoC)におけるデータ構造の検討を行っている配信データ構造、位置参照方式の3項目である。

表 5.4-1 当面の目標

SWG/検討アイテム	当面の目標
SWG3.1 (XGDF)	<ul style="list-style-type: none"> ● 欧州主導のXGDFに、どの程度日本のDRM21の考え方が盛り込めるかがポイント ● まずは、XGDFの空間記述モデルに、<u>DRM21の考え方の基本となる時空間記述方式を追加すべく活動中。次期XGDFへ向けた提案戦略の具体化も重要。</u> ● 最終ドラフト案(WD)のとりまとめは<u>2007年10月の予定。</u>
SWG3.2 (配信データ構造)	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本主導で国内状況もふまえた標準を作成すべく活動中。今後の詳細案検討においては、業界(Kiwi-Wコンソーシアムなど)と綿密に連携し、具体化していくことが必要。 ● 欧州Act MAP等のインプットにより、日本にとって不利な標準にならないように留意 ● <u>2008年4月の最終ドラフト案とりまとめが目標。</u>
SWG3.3 (位置参照方式)	今後、必要に応じ、標準化活動への参加等を検討
SWG3.4 (API)	車載端末内部の標準であり、道路側の活動との関係は薄い

(2) センタ・センタ間通信

- XGDF に DRM21 の考えを盛り込むことを目標として活動を展開。
- 2007 年 2 月に DRM21 の概念をもとにした非明示位相方式 (Non-explicit Topology) を XGDF ドラフト案へ組み入れる方針が決定。
- XGDF の空間記述モデルに、DRM21 の考え方の基本となる時空間記述方式を追加することが当面の目標。
- 次期 XGDF へ向けた提案戦略の具体化も重要。

SWG3.1 で検討している XGDF について、日本から DRM21 の考えを盛り込むことを目標として活動を展開。2007 年 2 月に DRM21 の概念をもとにした非明示位相方式 (Non-explicit Topology) を XGDF ドラフト案へ組み入れる方針が決定。

次期 XGDF へ向けた提案戦略を具体化することを当面の目標に標準化活動を実施していく。

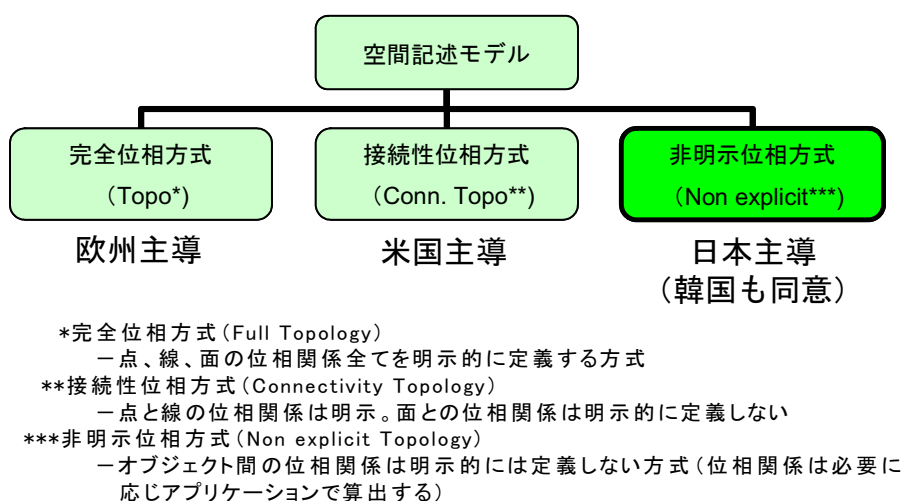


図 5.4-1 空間記述モデルの区分と日本提案の位置付け

(3) センタ・車載端末間通信について

- 2007年2月にリクワイアメント検討後の具体的な作成手順について合意。
- 2008年4月に日本主導で国内状況もふまえた標準を作成することが当面の目標。今後の詳細案検討においては、業界（Kiwi-W コンソーシアムなど）と綿密に連携し、具体化していくことが必要。
- 欧州 Act MAP 等のインプットにより、日本にとって不利な標準にならないように留意。

SWG3.2 で検討している地図配信データ構造については、将来における、災害情報、走行支援情報、電子納品成果を活用した情報など道路管理者が所有する情報のリアルタイム配信との関連性がある項目であり、日本の技術との親和性が高い国際標準案を具体化すべく、積極的に標準化活動を実施していく必要がある。

主な活動としては、2006年4月の釜山 TC204 総合に SWG3.2 の NP 提案を提出し、承認を得た。また、2006年7月に最終ドラフト案完成のスケジュールについて合意するとともに、TG を設置し、日本がリーダーおよびエディタを務めることに合意が得られた。さらに、2007年2月にはリクワイアメント検討後の具体的な作成手順について合意された。

なお、現在は NP 投票に向けリクワイアメントの検討を日本主導で実施している状況である。図 5.4-2 に日本主導で作成を行ったリクワイアメントの一部を示す。

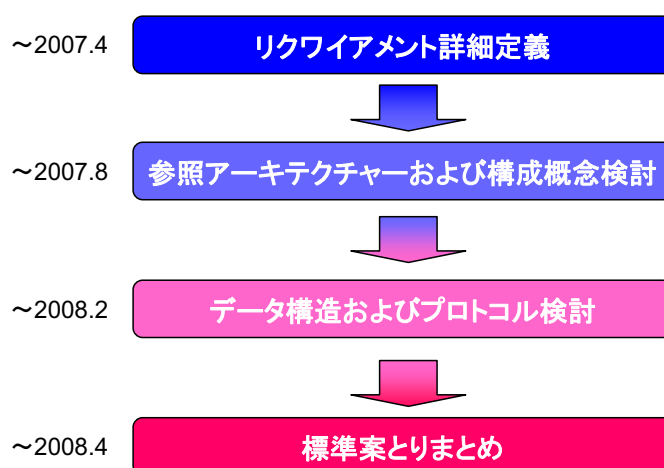


図 5.4-2 最終ドラフト案完成のスケジュール

(4)位置参照方式について

- 2006年11月にSWG3.3において、事前に定義されたコード体系を用いる方式（Pre-coded Profile）、緯度経度を用いる方式（Dynamic Profile）の2つの方式からなる標準案を策定。2007年2月現在、CD*投票集計作業中。

*CD:Committee Draft(s)

SWG3.3 で検討している位置参照方式は、アプリケーションや地図データベース間での位置情報交換の標準化の検討を行っている。具体的には図 5.4-3 に示す通り、方式1(Pre-coded Profile):事前に定義されたコード体系を用いる方式と方式2(Dynamic Profile):緯度経度を用い都度参照箇所を計算する方式の2つの方式からなる標準案を策定。

2007年2月現在、CD投票集計作業中。

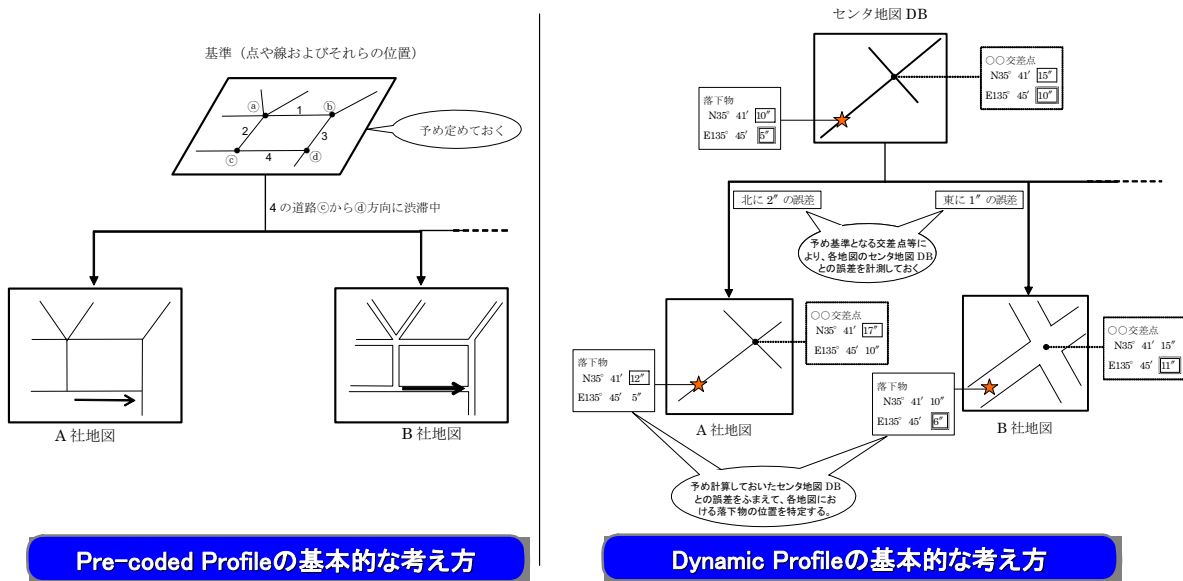


図 5.4-3 位置参照方式 2 方式の基本的な考え方